

令和7年度 安中市総合教育会議 会議録

日時 令和8年1月22日(木) 午後1時30分から午後2時50分まで  
場所 松井田庁舎2階 特別会議室

出席者

【市長部局】

市長	岩 井 均
政策・デジタル推進課	大 溝 泰彦
観光課長	永 井 敦久
文化財課長	上 原 貴洋

【教育委員会】

教育長	岩 崎 聡
教育長職務代理者	佐 藤 和子
委員	高 橋 恵美
委員	三 宅 豊
委員	中津瀬 隆

【教育委員会事務局】

教育部長	井 上 昇
総務課長	東 崎 育子
学校教育課長	関 井 貴美枝
指導係長	佐 藤 崇
指導係	大河原 麻紀子
生涯学習課長	飯 野 靖之
社会教育係長	島 田 智之
社会教育係	五 明 美和子

書記	佐 藤 直子
----	--------

※ 読みやすさ等のため、発言の内容や趣旨を損なわない範囲で、重複表現、言い回し等を整理しています。

◇ 教育部長

皆様、こんにちは。定刻となりましたので、ただいまから、令和7年度安中市総合教育会議を開会させていただきます。

皆様には、ご多用のところご参集いただき、ありがとうございます。

本日、司会を務めさせていただきます教育部長の井上です。よろしくお願いいたします。

皆様もご承知のとおり、総合教育会議は、教育に関する予算の編成・執行や条例提案など重要な権限を有している市長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、本市の教育課題やあるべき姿を共有し、より一層民意を反映した教育行政の推進を図るために開催されるものです。

それでは、開催にあたりまして、岩井市長からご挨拶をいただきます。

○ 市長

\* 挨拶

◇ 教育部長

ありがとうございました。

続いて、教育委員会を代表して、岩崎教育長からご挨拶をお願いいたします。

◇ 教育長

\* 挨拶

◇ 教育部長

ありがとうございました。

続いて、本日まで出席の教育委員の皆様から自己紹介をお願いいたします。併せまして、事務局職員の自己紹介をさせていただきます。

\* 委員、事務局職員が、それぞれ自己紹介を行った。

◇ 教育部長

続いて、本日の資料の確認をさせていただきます。

\* 会議資料の確認を行った。

◇ 教育部長

それでは、次第の4「協議事項」となります。総合教育会議につきましては、地方公共団体の長であります市長が招集・主宰することとなっておりますので、ここからの進行をお願いいたします。

○ 市長

それでは、私の方で進行を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

次第の4「協議事項」に入ります。

本日の協議事項は、「地域とともにある学校・学校とともにある地域づくり」です。

(1)各課が取り組んでいる現状及び課題について、説明を求めたいと思います。  
学校教育課からお願いします。

#### ◇ 学校教育課指導係

学校教育課の大河原と申します。ふるさと安中みらい学と学校運営協議会についてご報告させていただきます。お手元にあります資料をご覧ください。こちらは、安中市の学校教育です。

安中市の子供たちに「未来社会を切り拓く生きる力」を育てていくために、自立、協働、創造を中核にすえ、市内の学校全体で方向性を共有し取り組んでおります。

また、今年度より、「ふるさとを愛し、希望に満ちた安中っ子の育成」というキャッチフレーズを掲げ、「ふるさと安中みらい学」は、この中央にございます。

先ほど教育長の話にもありましたが、「ふるさと安中みらい学」は、子供たちに、安中のことをもっと知ってもらいたい、今も、これからも安中のことを好きでいてほしい、10年後、20年後、未来の安中市で生き生きと活躍してほしい、大きくなって安中から遠く離れても、生まれ育ったふるさとを思い、安中に貢献したいという思いをもってほしいという願いから生まれました。

安中市には、守っていくべき自然環境、受け継いでいきたい伝統・文化、発展させたい観光資源・産業等がたくさんあります。子供たちが、安中について知り、安中のために考え、行動することができるような学びを充実させていきたいと考えております。

今年度より3年間を「ふるさと安中みらい学」推進期間とし、各校が工夫しながら取り組みを始めたところ です。こちらを進めていく上で重要となるのは、「地域とともにある特色ある学校づくり」です。

今年度は、生活・総合的な学習の時間の充実に重点を当て、取り組んでおります。これは、よりよく課題を解決し自分の生き方を考えていくための資質能力を育成していく学びです。

小中9年間の学びを意識した教育課程の編成や、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進を図ることにより、これらは充実していくと考えています。

家庭や地域社会との連携・協働による地域とともにある学校づくりを推進していくことは、地域の子供たちは、学校を含めた地域で育てていく、地域の教育は、地域でデザインしていくということへとつながります。

地域、学校、家庭が協力して学びの場を作り、共に学び続けていくこと、子供と大人がお互いを主体として認め合い、協力しながら社会を作っていくこと、子供たち自身が、地域や人とつながりながら考えを広げ深めることで、地域とともに学び育つ“安中っ子”が生まれていくと考えます。

地域の方々との学びには、様々な効果が見込めるといえます

子供たちにとっては、実体験を通じた学びを行うことで、「本物に触れる」ことで、生きた知識を得ることができます。また、地域の多様な人々との出会いの中で、様々な価値観に触れることで、社会性等を身に付けることができると考えます。そして、地域の方々との交流を通して、子供たちは自分たちが暮らす安中に愛着や誇りをもち、ふるさと安中を思う心を醸成していくことができると考えます。これらは、地域全体の教育力の向上にもつながります。

学校における、地域の方々との学び、地域人材・地域教材の活用した事例をいくつか紹介させていただきます。

こちらは、総合的な学習の時間に、地域の方々をゲストティーチャーとして招いて学んだ例です。

#### \* 資料等に基づき写真の説明

こちらは秋間小学校の3年生が、梅林観光協会の方と一緒に秋間のよさについて話し合っ

いる様子です。

また、こちらは東横野小学校の6年生が、太々神楽保存会の方々と一緒に太々神楽を後世に引き継いでいく工夫について話し合っています。後継者不足等、神楽師の方々から現状について話を聞くことで、子供たちは「なんとかしなくては」と自分事として捉え、考える姿が見られました。

「SNSを活用したらどうか」「キャラクターをつくったらどうか」など、子供たちならではの発想が出て、充実した話し合いになりました。神楽師の方々からも意見を聞き、同じ課題について共に考える機会を得たことで、子供たちは目的意識・相手意識をもって考えることができました。

**\* 資料等に基づき写真の説明**

こちらは、外部講師を招いて学んだ例です。

碓東小の6年生が、防災について危機管理課の方々を講師に招き、災害に関する基礎知識や防災対策等教えていただきました。

子供たちは、専門家の方々の話を聞いて、防災の意義について考えることで、「自分が碓東地域のためにできることは何か」を自分事として考え、行動に移そうという意識が芽生えました。

この後、この6年生たちは総合の授業で「碓東防災教室」を開きました。

**\* 資料等に基づき写真の説明**

こちらは、校外での取組です。

碓東小5年生は、公民館の地域文化祭に参加しました。

碓東地域を盛り上げるために自分たちができることを考え、公民館の文化祭で、幅広い年齢層の方々が楽しめるイベントを実施しました。子供たちが参加したことで、地域文化祭の来場者数がだいぶ増加したと聞いています。また、子供たちの感想からも、地域貢献の意識が芽生えてきたと考えられます。

**\* 資料等に基づき写真の説明**

こちらは、磯部小6年生が、市役所の見学を行った際のもので、議会事務局や秘書課の方々にお世話になりました。子供たちは、初めて訪れる議場に興奮しながら見学していました。

**\* 資料等に基づき写真の説明**

こちらは、「安中市をよくするために」ということで、市長にインタビューをさせていただいた時のものです。市長からは、「こんな安中市にしていきたい」という安中を思う心など、子供たちにわかりやすくお答えいただきました。大変ありがとうございました。

子供たちは、目を輝かせながら、耳を傾けていました。また、磯部小6年生の視点からの市への提言では、各課の方々にご回答をいただきました。子供たちは、いただいた回答を熱心に読んでいたと聞いております。大変お世話になりました。

その他にも、多くの機関等にお世話になっております。

地域とつながりを広め地域人材や地域教材を活用した授業づくりを行うには、まず先生方に知っていただくことが必要です。

**\* 資料等に基づき写真の説明**

こちらは、今年度8月に実施した「ふるさと安中みらい学」現地視察の様子です。

文化財課の方々に相談に乗っていただき、国指定のめがね橋や築瀬二子塚古墳を巡り、詳し

く説明していただきました。

参加した先生方からは、「説明がわかりやすく、今まで漠然としか知らなかったことを正確に学ぶことができた」「今日学んだことを生かすと共に、安中を好きで大事にしたいと思える子供を増やしたい」などの感想がありました。

午後は、自性寺焼きの体験を行いました。先生方は、社会科や図工・美術の授業とつなげて考えるなど、地域の素材をどう授業に組み込むか、想像を膨らませることの楽しさを味わいながら製作に取り組みました。

また、別日には、ふるさと学習館の見学を行い、安中市内の歴史や文化について学ぶ機会を設けました。

#### \* 資料等に基づきアンケート結果について説明

こちらは、「ふるさと安中みらい学」の現状及び課題を把握するため実施したアンケート結果です。小学校3年生から中学生までの児童生徒及び教職員に実施しました。

自分の住む地域や安中市の内容について学習することは大切かという質問には、92.6%の児童生徒が肯定的な回答でした。また、「自分の住む地域や安中市をよくするために何かしてみたいと思うか」という質問には、84.5%の児童生徒が、肯定的な回答でした。

これらの結果から、子供たちは、地域について学ぶことを肯定的に捉えたり、地域のために貢献したいという意欲をもったりしていることがわかります。

一方、教職員へのアンケートでは、課題となる部分も見えてきました。一つ目は、地域人材、外部施設との連絡調整が負担である点です。授業の合間に連絡を取ったり、打合せをしたりすることで時間がかかったり、地域のどんな人となつなるとよいか悩んだりする点が挙げられました。

また、この後、生涯学習課からも説明がありますが、来年度より、地域学校協働活動推進員がモデル校に配置されます。

地域学校協働活動推進員に、学校と地域とのパイプ役になってもらうことで円滑な活動が期待できます。また、市内には数多くの地域教材がありますが、それを把握し、学校教育に生かすには、多くの方々の協力が必要です。今後、人材リスト等準備する予定ですが、市内のより多くの機関と連携したり、市役所の様々な部署のお力を借りられたらありがたいと思っています。

二つ目は、地域全体で子供を育む意識の醸成です。

「育成会も減り、地域のつながりが希薄になっている現状であるため、保護者等を巻き込んだり、地域全体で教育に関わったりすることが大切なのではないか」、「教育委員会や学校だけで考えるのではなく、行政全体で安中市の子供をどう育てるのか考える必要があるのではないか」という意見が出ておりました。

本日は、市長はじめ関係各課の方々と一緒に考えることができるよい機会であり、感謝いたします。今日をきっかけに、多面的な角度から、子供たちに「ふるさと安中を思う心」を育む学びについて、一緒にお考えいただくと幸いです。

続きまして、学校運営協議会についてご報告いたします。

令和4年度より、市内の全小中学校に、学校運営協議会を設置しており、コミュニティ・スクールとなっています。子供たちを取り巻く環境や学校が抱える課題は、年々複雑化・多様化しております。これからの学校はどのような子供たちを育てるのか、何を実現していくのかという目標やビジョンを地域の方々等と共有し、地域と一体となって子供たちを育むことが重要であり、学校運営協議会はそのための方法の一つと言えます。

これは小学校の学校運営協議会を見学させていただいた際の様子です。

#### \* 資料等に基づき写真の説明

学校が感じている課題から、これからの子供たちに必要な力をどう培うか考える熟議を行いました。熟議とは、学校や地域の現状を共有し、立場の違いを超えて「どうすればよくなるか」を多面的、多角的に話し合うものです。

今回の協議会では、「自分の命は自分で守る力」を子供たちに育むには、というテーマについて、「危険についての想像力を高めることが大切」「防災訓練や防災座談会に親子で参加する」など、様々な角度からの意見が出されました。

今後に向けてという点では、当事者意識をもって協議することや、話し合ったことを実現するために地域の方々と共に実践に移すところに課題があります。

今後とも、地域と学校が一体となって子供たちを支えるためよりよい方法を考えていきたいと思えます。

私からは以上です。ありがとうございました。

○ 市長

ありがとうございました。

続きまして、生涯学習課からお願いいたします。

◇ 生涯学習課社会教育係

生涯学習課の五明と申します。地域学校協働活動推進員に関する取組についてご報告いたします。生涯学習課の資料をご覧ください。

\* 資料等に基づき説明

学校教育課から先ほど報告させていただいたコミュニティ・スクールやふるさと安中みらい学の取組をより充実したものにするため、生涯学習課では、推進員の委嘱に向けて学校教育課と連携しながら準備を進めており、令和 8 年度に、モデル校での先行実施を予定しています。

始めに、地域学校協働活動推進員についてご説明します。

地域学校協働活動推進員とは、社会教育法に基づき教育委員会が委嘱する地域住民等と学校との連絡調整等を行うコーディネーターです。地域学校協働活動を推進するために必要な存在です。地域学校協働活動は、幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、「学校とともにある地域づくり」を目指して、学校と地域が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動のことであると定義されています。具体的には、郷土学習や読み聞かせ、登下校の見守り活動などの活動があります。

子供たちや学校にとっても、活動に参加する人にとっても WINWIN な活動になることが理想とされています。

学校と地域の連携・協働のためには、次の時代を担う子供たちに対して、どのような資質を育むのかという目標やビジョンを関係者で共有することが大切になりますが、学校運営協議会の協議がその役割を担います。推進員を委嘱することで、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動が一体的に推進され、教育活動と地域づくりに資する活動の充実、活性化が期待されています。

安中市の推進員の委嘱につきましては、令和 8 年度に先行実施する予定です。推進員には学校と地域の橋渡し役をお願いしたいと考えています。

推進員が地域住民等と学校をつなぐことにより、子供たちが地域の人から学んだり、一緒に活動したりすることで、体験を通じた豊かな学びが実現します。さらに地域の大人と関わりながら学ぶことは、地域を愛する気持ちと子供たちの自己有用感を高めます。また、地域にとっては、子供たちの成長を支える活動に参加することで生まれる、参加者一人一人のやりがいや生きがい、地

域の人同士のつながりは、地域の暮らしを豊かにすることにもつながります。

これまでも、子供たちを支える活動は行われてきましたが、推進員のコーディネートにより、今までの活動も生かしながら、参加者が共通の目標やビジョンを持つ継続した活動になること、さらに、活動に参加する地域住民も楽しみながら一緒に活動し、学び、そこに生まれるつながりを土台にして、地域の活動がより盛んになることで、学校とともにある地域づくりを目指していきます。

推進員の任期は1年としますが、再任も可能です。令和9年度からは複数の学校を担当していただくこともできます。選定については、地区公民館・地区生涯学習センター・教育委員会・学校が情報を共有しながら行ってまいります。

主な活動としましては、学校や地域住民等との連絡・調整や打合せ、地域ボランティアの募集・確保など、お示したような項目となりますが、そのうち、地域の実情に応じて、できることから少しずつ活動していただきたいと考えています。

活動時間は一人当たり75時間を上限とし、報償の準備をしております。

また、活動の拠点を地区公民館や地区生涯学習センターとし、活動の支援をさせていただきます。令和8年度からは、公民館長や生涯学習指導員も職務として推進員の果たす役割を担いますので、推進員、公民館、生涯学習センターが連携しながら活動を行えるようにしてまいります。

今後の予定ですが、先行実施にあたり、昨年11月に公募を行いましたところ、2校に応募をしていただきました。来年度に向け、先行実施校と推進員として推薦された方へ説明に伺いたいと考えています。令和9年度以降は、各校の実情に応じて推進員の委嘱を進めていく予定です。

最後に今後の課題ですが、どのような方に推進員をお願いしたらよいかという人選の難しさ、小学校と中学校間の活動の違いや学校規模の違いなど、それぞれの学校や地域の実情の違いが、推進員の委嘱を進めていく上で大きな課題と感じています。また、先行実施後には、現在想定している実施方法等の改善点や修正点が見えてくることと思われまます。学校や地域の実情を踏まえ、一律に推進員を委嘱するのではなく、関係の皆様のご意見を伺いながら、少しずつ、どのような形で進めていくのがよいか検討してまいりたいと考えています。

また今後は、推進員の皆さんに充実した活動をしていただけるよう、支援させていただくとともに、地域等関係の皆様への周知にも努めてまいります。推進員の委嘱と支援を通して未来を担う子供たちの学びと成長を地域全体で支える体制づくりと学校とともにある地域づくりを推進してまいります。

私からは以上です。ありがとうございました。

#### ○ 市長

ありがとうございました。

各課からの取組状況及び課題についての説明が終わりました。次に、説明を踏まえて、(2)学校と地域のより効果的な連携・協働に向けて、協議してまいります。

ただいまの説明内容について、ご質問や学校と地域のより効果的な連携・協働に向けてのご意見がありましたらお願いします。

#### ■ 佐藤委員

学校教育課が説明した、地域とともにある学校を目指して、人材の活用、地域の事業を取り入れる授業のなかで、生涯学習課の地域学校協働活動推進員との連携や学校教育課の事業への関わり方について、またコミュニティ・スクールや地域学校協働活動との連携について教えてください。

#### ◇ 学校教育課長

地域学校協働活動推進員についてですが、学校の授業の中に入れていただくことも考えています。先生と協力しながら、地域の方との連携の橋渡しになりますので、事例によってはありますが、授業に入れていただくことも想定しています。

また、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動との連携についてですが、学校支援だけではなく、地域の方にも子供たちと一緒に地域をよりよくしていくことを、共に考え、意見を出していく方向に進めたいと考えています。

様々な体験を通じて、子供たち自身がどう地域に携わっていくか、総合的な学習の時間の授業を充実させていく一部分だと感じています。そのためにも、教職員の研修なども充実させていきたいと思っています。

#### ◇ 観光課長

自然豊かな安中には主要な観光地に加え、小規模な観光資源が多数存在しています。先日、秋間梅林協会の会長とお話しする機会があり、子供たちの遊びが多様化する現代は若年層世代の興味関心が多様化し、従来の「花見」を目的とした来訪が減少している現況について話題になりました。

そういった中、観光課の取組として、若年層も来訪しやすいよう、夜間のライトアップを実施するなど、魅力ある新たな取組を行っています。

また、安中市のボランティアガイドの会についてですが、高齢化し様々な課題がある中、碓東小学校からの校外学習の依頼を受け、子供たちが資料館を訪れた際に説明を行ったところ、目をキラキラさせ、初めて訪れた資料館への興味関心の高まりを感じ、その姿に感動したという事例も報告されています。また、子供たちからお礼の手紙もいただき、とても嬉しかったという声もいただきました。

子供たちの校外学習によって、ボランティアガイドの方々自身にとっても、地域から力をいただいている事に気づき、何より、相互の関係性が生まれていると実感しました。

ぜひ今後についても、学校と連携し、安中市の観光資源に触れ、地域づくりにもつなげていけたらと思います。そのため、観光課としても各部署と協力していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

#### ■ 中津瀬委員

私は太々神楽保存会会長を仰せつかっておりまして、学校から依頼があって、仲間に話をしたところ、賛同してくれ、小学校体育館に舞殿をつくって笛・太鼓を運び込んで実際に衣装を着て一幕を舞ってみせました。6年生の子供たちがビデオを撮りながら真剣に見て、そのあと笛太鼓、衣装などについて沢山質問してくれました。普段は舞殿は上のほうにあるものですからよく見えないですけど、同じ場所から見てくれて、一層関心が広まったなと感じました。私たちにとっても、良い経験になって、「してあげた」ではなく「させてもらった」という気持ちが強いかなと思います。

何より、地域の自慢ということで、太々神楽を取り上げてくれたことについても光栄ですし、嬉しいことだと感じています。そのあとの研究授業にも参加させていただき、その中で SNS で発信したり、太々神楽の立て札を作ったほうが良いのではなど、高齢化して、これから 10 年続くかという局面で、若い子供たちが心配をしてくれたり、この先どうしたら続けていけるかなど、ディスカッションしてくれたことは大変ありがたいことだと思います。また、やがてその子供たちの中から、神楽師が出てくれれば本当にありがたいことだと思います。

ただ、連携という場面を考えた場合には、学校から依頼があって準備を進める中で、今回は想定時間等をイメージしてスムーズにできました。しかし、学校教育課の説明のなかで、教職員のアンケート結果の課題面をみても、時間・場所・内容・ねらいにあった地域の人材を選定し、連絡調整を行うことは教員の立場からしては非常に難しいという意見もありますし、地域人材等、外部との連携に時間がかかったり、教職員に負担がかかるという課題もあります。どういう教材をどういう場面で取り上げ、どう教育課程の中に落とし込んでいくかということは、そう簡単にできることではないと感じました。今回、さまざまな専門的な方に間に入っただき、連絡調整していただけたということで、その方々の責任の重大さや、地域の事業をしっかりと子供たちに伝えて、その目的やねらい、またその意義を理解していただくことはそう簡単にはできないなという印象があります。

来年についてもぜひお願いしますと言われ、張り切って行かせていただく予定ですが、地域の誇りを持っていただくのは嬉しいことですし、どういう形で子供たちにお返しできるか私たちも真剣に考えていく大きな課題かなと思っています。

良い機会を与えていただき、ありがとうございました。安中みらい学のこれからの発展に大いに期待したいと思います。今後も少しでもお役に立てればと思っています。

#### ◇ 教育長

観光課長の話のとおり、学校に来てもらうことによって、その方々が生きがいを持つというのがWIN WINの関係かなと思っています。ガイドさんが「さらに磨きをかけなくては」「自分たちが役に立っている」「観光客だけではなく、子供たちの役にも立っている」等とってくれると学校側もお願いした甲斐があるかなと思っています。大人の方も「もっと地域のことを知らなくては」となる理想的なWIN WINの関係の輪が少しずつ広がっていけばいいと思います。

地域とのつながりが大事で、そこをやっていく上で、地域学校協働活動推進員とコミュニティ・スクールが重要な組織として必要であり、さらにそこを一体的に進めていくという、生涯学習課の資料にあるようなコミュニティ・スクールと地域の各組織が手をつなぎ活動していくことが大切です。そして、そういう意味で、推進員の役割が重要だと思います。

文化財課のふるさと学習館との連携について、文化財課長から何かあればお願いします。

#### ◇ 文化財課長

太々神楽と学校との連携については、学芸員と連携を図っていく予定です。

太々神楽も含め、様々な文化財についても、次世代後継者不足という状況のなか、太々神楽の活動がヒントとなり、良いモデルになるのではないかなと思っています。

#### ■ 佐藤委員

皆さんが個々のものを通して地域と繋がろうと努力されているのがよく伝わりました。ただ、地域の活動や状況について、つながりがない地域の住民にはなかなか状況把握が難しいと感じています。そこで命を守るための防災訓練や防災座談会などを開催し、学校と地域で取り組むことで、地域の活動のなかにも取り入れていただければと感じます。

#### ◇ 学校教育課長

碓東小学校の6年生が実際に防災教室を行いました。子供たちのなかには、もっと地域の人にも知ってもらいたい、保護者に見てもらいたいという考えが出てきました。公民館

でやってみようかというアイデアも出てくるなど、学校の中だけではなく、外へ外へと目を向けてきているのではないかなと思います。そういった活動が地域へ広がっていけば良いと感じています。

■ 佐藤委員

様々な活動を通じて、若い世代と一緒に活動する中で地域が活性化すると思います。

■ 高橋委員

安中っ子についての取り組みとして、現在は限られた地域での活動が主であると感じますが、安中市という広い枠の中でとらえて取り組むことで、子供たちが市内の各地区の伝統文化に触れる機会も増えると思います。また、授業のなかでスクールバスを活用し、多方面での活動に触れる機会が増えれば良いと思います。

◇ 学校教育課長

中学生になると、中学校区での活動も行っております。秋間梅林については、複数の学校が出向いています。今後も安中市全体として活動を行っていただければと思います。

○ 市長

市内全体での体験活動とのことですが、碓氷峠の廃線ウォークに各中学校で行って市内の観光資源について学ぶなど、知らないものに触れる機会も大切だと思います。

◇ 教育長

予定ですが、今年度は全中学校の3年生が卒業前に廃線ウォークを実施できるよう計画しています。世界遺産に向けての取組になればと思っており、熊野平まで歩き、めがね橋まで下りてきて、バスで帰ってくるコースです。安中の名所を卒業前に見てほしいと計画しています。

子供たちに地域への意識、そして市内全域と意識をもってもらいたい、自分たちが行動を起こさなくてはいけないという気づきにつなげてもらいたいと思います。

碓東小学校のように、子供たち自身が気づいて、校区の活動につなげる必要があることに気づいていくような学びにつなげていけたらと思います。

◇ 政策デジタル・推進課長

子供たちの斬新な意見を聞く機会もあり、また、子供たちの多様な意見や豊富な知識に感心しました。

ふるさと安中みらい学として「ふるさとを愛し、希望に満ちた安中っ子の育成」ということで、安中のことを知ってもらうことが非常に大事だと感じています。安中市内の名所、安中市の活動についての学びの活動はとても良い活動だと思います。それと併せて、安中市の政策についても子供たちに知っていただけたら、安中市の目指すまちづくりがわかるかと思っています。

当課では、令和5年度に「第3次総合計画あんなか まちづくりビジョン2024」を策定しまして、令和6年度には計画内容について動画版・漫画版を作りました。子供たちにもわかりやすい内容で、各学校に配布しました。こちらのデータを学校にも配布しております。安中市のまちづくりについて、小さい頃から触れていただき、将来的には内外から安中市の姿をみて故郷の良さに気づき、安中市に戻ってきていただけたらと思います。

■ 三宅委員

いじめのない学校、そして子育てしやすい街づくりを目指すことも必要ですね。

■ 中津瀬委員

地域学校協働活動推進員の選出について、どういった方が配置対象になるかお聞かせください。

◇ 生涯学習課長

学校長の推薦のもと、公民館等と連携をとりながら、地域とつながりの深い方を委嘱する予定です。

◇ 教育長

来年度、2校をモデル校として実施予定で、次年度以降につなげていけたらと思います。公民館長などとも相談して、最終的に校長に推薦してもらうことになっています。

○ 市長

他には、よろしいですか。

それでは本日予定されておりました協議事項につきましては終了とさせていただきます。事務局に進行をお返しします。

◇ 教育部長

市長、委員の皆様、ありがとうございました。

続きまして次第の5「その他」に移ります。

\* 総務課長が、会議録の作成について説明。

◇ 教育部長

事務局からは以上でございます。

委員の皆様から他に何かございましたら、お願いいたします。

\* 発言等は無かった。

◇ 教育部長

無いようですので次に進めます。

次第の6「市長の会議総括」です。岩井市長、お願いいたします。

○ 市長

教育委員の皆様から幅広いご意見をいただき、ありがとうございました。

いただいたご意見について、これからいろんな面で参考にしながら、施策に反映させながら取り組んでいきたいと思っております。

今回の会議では、子供たちに地域の伝統文化を知ってもらう大切さを再確認されたと思いますが、磯部小学校では、磯部出身の詩人である大手拓次の紙芝居を子供たちに披露し

たところ、今後も継続的な取組としてやっていきたいという話がありました。こういった活動も、地域の教材として活用できると感じました。また、今後は、安中ふるさと人物事典の拡充を行う予定であり、今年度中に完成予定ですので、こちらについても教材活用につながられると感じています。また、令和安中かるたについても子供たちの教材につながったり、観光者向けの観光資源としての可能性を持つと思いますので、うまく活用できれば良いと思いますし、安中市の人物・名所・旧跡など様々な情報発信のきっかけにつながると思います。

まずは、私たち自身が地元を知り、地元を理解し、地元を誇れるように、そのためにも、子供たちには子供の頃に様々な伝統行事に触れる機会を与え、伝統文化の良さについて、実体験を通じて感じていただきたいと思います。そういった経験が、将来の帰郷意欲や地域愛着に影響すると考えますので、子供たちのよき思い出作りが安中市のより豊かな郷土づくりになっていくと思います。

今後も引き続き、公民館・生涯学習センターとより一層連携し、地域密着の取組を強化していきたいと考えますので、教育委員さんにおかれましては、引き続きご指導ご鞭撻いただけますようお願いいたします。

#### ◇ 教育部長

岩井市長ありがとうございました。

これもちまして、令和7年度、安中市総合教育会議を閉会とさせていただきます。皆様大変お疲れ様でした。